

2019 年度実施概要

学校名

熊本県立岱志高等学校

採択活動名

森里川海の繋がりとし里海の大切さを実感し、地域創生海洋教育を展開する

取り組みの概要

この取組では、地元の里海である荒尾干潟の教材化に主眼を置いたカリキュラム編成を構築する。

里海である荒尾干潟や有明海を人との関わり合いの強い自然環境として捉えることができるよう、書道の毛筆を巣穴に入れてアナジャコ捕獲する地域の伝統漁法「マジック釣り」を1年生全員に体験させ、家庭科の調理実習として「マジック天ぷら」を作り試食を行う。その体感したことを生物基礎の授業に取り入れたり、総合的な探究の時間の成果物として発表したり、これらの体験や成果を記録に残し、生徒一人ひとりのポートフォリオにしたりする。

また、部活動での科学研究活動の成果を公的な場で、積極的に発表することや学校がボランティア活動として行う海岸清掃をとおして、荒尾干潟が、地域の産業と深く結びついている里海だと理解させる。荒尾干潟から有明海再生・海洋環境保全の大切さのメッセージを発信したい。そして、他県の高校生や環境省・荒尾市行政の方々等との連携を大切に、各地で情報発信を行い、荒尾干潟の保全・賢明利活用に学校全体として寄与したいと考えている。

この取組で、ひとり一人の生徒にとって最も大切にしたいことは、荒尾干潟（有明海）を体感すること、評価の視点は、食べ物として価値あるものが足元にあること、満潮時に海だったところを干潮時には歩いて移動して、獲物を捕れることなど、スーパーマーケットで食材を得ている日常とは異なる体験をしていることをひとり一人が実感できたかについて、事後のポートフォリオを丁寧に指導者が読むことによって確認する。

3つの教科（総合的な探究の時間、家庭科、理科）を横断的に繋ぐことで、学年に所属する生徒も職員も一体感を持ちながら学習できる特徴があるので、本校1年生カリキュラムとして定着させていきたい。

なお、今年度は年度末に行われた COVID-19（新型コロナウイルスによる感染症）の感染拡大防止のための臨時休校等で、生徒達が十分に活動できていないため、学習の成果としての荒尾市ウェルネスタウン開発への提言は不十分に終わりましたが、塩性湿地を意図的に商業施設や居住域と隣接する場所に作り、生態系サービスを呼び込み、生物の恵みを実感できる近未来都市開発への貢献を目指しています。来年度は、この取組を生徒会や学校全体として継続し、荒尾市と協力関係を築いていきたいと考えています。

活動中の写真

デジタルデータにて2～3枚の添付をお願いします。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 荒尾干潟と塩性湿地からの地域創生海洋教育

2.
